

光市医師会報

平成8年4月号

No. 282



「入日薄れ…」

光市医師会

平成8・9年度 光市医師会役員

議	長	廣	田	通	男	裁	定	委	員	中	村	琢	美
副	長	田	中	信	彦	〃				中	村	国	雄
会	長	近	藤	龍	一	〃				板	垣	省	三
副	長	前	田	昇	一	〃				丸	岩		巖
理	事	赤	崎	信	正	〃				富	恵		哲
〃		藤	原	邦	彦	〃	県	代	議	員	近	藤	龍
〃		光	武	達	夫	〃				前	田	昇	一
〃		梅	田		馨	〃	県	予	備	代	議	員	馨
〃		吉	村	明	人	〃				吉	村	明	人
〃		松	村	寿	太郎	〃	顧	問		竹	中	昭	二
〃		河	村	康	明	〃				福	本	寿	雄
監	事	渡	辺	貞	雄								
〃		田	村	勝	司								

平成8・9年度会務分担

会 務	担 当	会 務	担 当
総 務	近 藤 龍 一	医療情報システム	光 武 達 夫
庶 務、会 計	前 田 昇 一	住 民 保 健	松 村 寿 太 郎
広 報	吉 村 明 人	学 校 保 健	前 田 昇 一
生 涯 教 育	赤 崎 信 正	産 業 保 健	前 田 昇 一
保 険	光 武 達 夫	会 員 福 祉	河 村 康 明
労 災、自 賠 責	光 武 達 夫	税 制、労 務	松 村 寿 太 郎
医 事 紛 争、麻 薬	藤 原 邦 彦	納 税 貯 蓄 組 合	河 村 康 明
地 域 医 療、救 急	梅 田 馨		

新しく理事になって

松村 寿太郎

河村 康明

光医師会に入会して、5年経過したばかりですが、このたび新理事に選出され、少しとまどいを感じているところです。

早速、住民保健及び税制・労務担当理事の2部門を担当することになりました。

最近、住民の健康に対する関心の深さはますます強くなってきており、ひいては医療に対する住民の要望も多様化してきている様で、一診療所の医師一人で、この要望に応じることは到底不可能で、病診連携はもちろん、今後は診診連携も充分機能し対応していかなければならないと思われまます。会員の先生方の御指導、御協力を得ながら頑張っていきたいと思っております。

又、先輩の諸先生方と若い先生方との交流の橋渡しに少しでもお役に立てればよいと考えております。どうかよろしくお願いいたします。

今回、新理事として選出されましたが、余りに無縁の役目に選ばれてとまどいをかくせません。今年は日医会長・県医師会長の交代もあり、イチローのCMではありませんが「変わらなきゃあ」というところかなと思っています。医師会については、昔、父が会員であった頃（昭和30～40年代）のムードと6年前に自分が医師会員となった時の感覚にある種のズレを感じていました。

勿論、立場の違いはありますが、このあたりの微妙な変化を新しいものにするのが、後に続く我々の役目であろうと思っています。どうか御指導をよろしくお願い致します。

3 月 度 月 間 行 事

日	行 事	場 所
8	心電図研究会	光商工会館
13	定例理事会	光商工会館～医師会事務局
19	保険説明会	光商工会館
26	例会、特別研修会	光商工会館

〈会員広場〉

肺 癌 を 経 験 し て

福 本 寿 雄

私は現在68才。医者になって45年、開業して32年になる。私は医師会員の中でも割合元気な方であると思うが、今迄の人生で少々無茶、無鉄砲、無軌道の生活をしており、医者の不養生の典型的な生き方をしてきたように思う。

煙草は、昭和20年終戦の年から、1日20本程度吸いはじめてから50年間も続いており、一度も禁煙しようと考えたこともなかった。又酒の方は、毎晩毎晩大量の酒を飲んでおり皆さんに大変迷惑をかけたように思う。その酒の飲み過ぎで昭和47年に急性肺炎をやり、肺炎が落ち着いたら、今度は高血圧、心筋虚血、脂肪肝が出てきた。酒を少し控え目にすれば良いなどと自分勝手に判断して、薬を飲みつゝ酒を嗜んでおりました。それなのに、大病をしないのは不思議な位元気で68才の現在迄、生活しておりました。

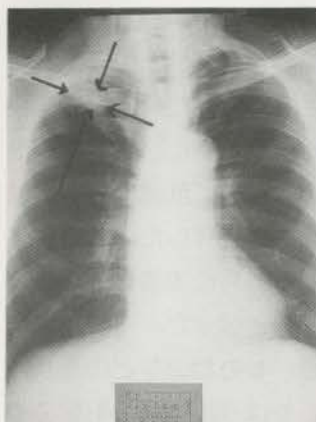
ところが、一昨年暮に右肺鎖骨下に肺癌を発見して、すぐに手術をしましたが、自分が癌になるなんて考えられず、又手術がこんなに大変なものであることなど、思ってもみなかった。患者さんには、「手術さえしたら簡単に元気になるんだよ」と説明していたが、いざ自分の身になってみるとどんなに大変な事であるのかと言うことが身に沁みてよく判った。手術をする前の不安と緊張や手術後の苦痛などあり、病気に對する考え方、強いては人生のあり方につ

いても考えさせられたので、そのことをまとめて書いてみた。

私は子供の頃は、腺病質の子、虚弱体質の子であり、年中扁桃炎を起し毎月のように休学していた。そして扁桃摘などしたが、慢性中耳炎から難聴となり、いろいろ治療したが全く治らなかった。そのまゝだったら多分、自然淘汰にて間引きされても文句の言えないような弱い体であった。しかし戦争のお蔭で中学2年生の頃より、勤労動員に引張り出され、高射砲陣地をつくったり、防空壕を掘ったりばかりしていたので、体を鍛えることが出来すっかり丈夫な体となりました。その後は病氣らしい病氣は殆んどしなくなりました。私自身、結核の研究をしておりましたので、年に2~3回は胸部のレ線写真を撮っていたが、結核の既往はないのに、両肺尖部に古い治癒した痕が残っておりました。それをみて、結核を経験したものは癌にならない、なりにくいと思い込んでおりましたので、煙草をやめようとも考えてもおりませんでした。

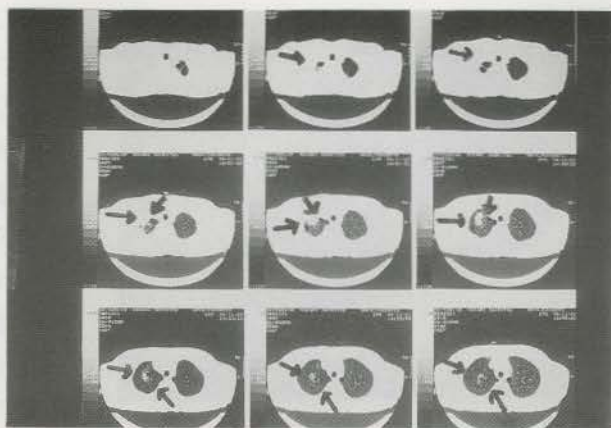
ところが一昨年9月、右肩関節後部に神経痛が出て带状疱疹に気付いた。それが治っても今度は右の鎖骨部に痛みを感じたので、これはおかしいと思って、平成6年11月21日にレ線写真を撮ったところ、4~2cmの楕円形の陰を認めた。(図1、図2)。

自分でこれは絶対癌だと思い込み、光市立病院板垣院長、徳山中央病院岡本先生に



(図1)

(平成6年11月21日)
右鎖骨下陰影



(図2)

(平成6年11月21日 両肺尖部CT写真)
右肺尖部透亮像がTumor

みて頂いた。1ヵ月位様子を見て、昨年1月17日に気管支ファイバーをやり、扁平上皮癌と診断された。そして、種々検査をして他臓器にも転移がないことを確かめ、平成7年2月9日に徳山中央病院に於て、宮内先生の麻酔、宮下先生の執刃の下で、右肺上葉切除をして頂いた。肋膜に癒着がなかったので手術も2時間で終了したが、麻酔が良く効いたのが丸1日眠りつづけた。術後4日目に胸のドレーン2本を抜管し、6日目に右背部の縫合30針を抜糸し、2週間後より放射線ライナックを照射され、丁度1ヵ月目3月8日に無事退院した。

術後、切除肺の病理組織で右上葉S1に、 $32 \times 20 \times 8$ mmの扁平上皮癌であった。

(図3)。肺門、縦隔のリンパ腺に転移なく、肋膜への浸潤も認めなかった。又肝、骨、脳にも遠隔転移も認めなかった。そして第1期の肺癌(扁平上皮癌)との診断であった。

病気の発見、検査、手術や術後肺の膨脹

など、すべて順調に経過し早期に治癒したかにみえたが、麻酔、手術のせい、又放射線照射の影響か、或は年令の為に判らないが、体がだるく、眠たく、何か力が入りにくく十分に回復してないようだった。現在のところ1年を経過して、やっと8~9割元気になったような気がする状況である。

30~40年前に肺結核の患者に肺葉切除の手術をしても、1年後現場の労働に復職させず、事務等の軽作業に復帰させた意義がやっと判ったような気がした。「身体髪膚、これを父母に受く。敢えて毀傷せざるは孝の始めなり」と言う昔の言葉が頭に浮んで来て、その意味がよく判ってきた。なるべくなら、手術はしたくないものである。

[手術をして感じたこと]

(1)術前の検査をして、腹部エコーにて胆石(小さいもの数コ)と腎嚢胞を発見された。又心エコーにて心筋の肥大(軽度の心筋症)を指摘された。やはり年のせいかな?



(図3)

(平成7年2月9日 右肺上葉切除標本)
 (上部の細長い乳白色が扁平上皮癌)

(2)気管支ファイバー検査。昔、気管支鏡又造影など盛んにやったが、技術の進歩によってあまり苦しくなかった。しかし生食水を注入した時はむせて苦しかった。

(3)全身麻酔の影響かどうか判然としないが、術後6ヵ月間位は考えることがまとまらず、ボケの始まりかと思った。又考えることと体を動かすことがバラバラの感じで、物に対する反応が鈍くなった様な感じで、いわゆるプツンという感じであった。

(4)肺切除の影響。右上葉を全部切除したが、約10日で右中、下葉が80%位膨脹したのにはびっくりした。術後の胸痛を心配したが、細い管より朝晩に塩モヒを注入してくれたので、胸痛は全く感じなかった。しかし、胸腔内に入れた2本のドレーンの太い管を抜く時はショックを起す位に痛く苦しかった。それと共に術後4~5日間は血痰がつつき、痰がきれないので呼吸困難やむせることが長くつつき苦しかった。

(5)放射線照射の影響。術後2週間後より放射線ライナックを25回、50グレイ照

射した。昔のレントゲン照射やコバルト治療に比べて放射線障害も少いと思っていたのだが、照射終了近くなった頃より、全身倦怠感、嗜眠状態がつづいた。胸部写真を撮る度に右肺のあちこちに肺臓炎らしい陰が出て、CRP、血沈上昇したのでエリスロマイシンにより6ヵ月位で陰影も出なくなり血液検査も正常となった。術後1年たった頃より倦怠感、ねむたいなどの症状がとれてきたので、やはり放射線の影響であったと思いあらためて怖いものだと感じた。

(6)肺癌でも運が良かったと思ったこと。

①発見が早く、早く手術が出来たこと。

②進行度のおそい扁平上皮癌であった。

③扁平上皮癌は肺門に出来やすいが、私の場合は肺野に発生したので手術しやすかった。

④肺野に出来た扁平上皮癌は自覚症がないことが多いが、私の場合は胸痛があった。

⑤肋膜に癒着がなかった為、手術に時間がかからず転移もなかった由。

〔現在の心境〕

60才を越えた頃より(平成元年頃)世の中の変り方があまりにも早いので、テンポの遅い私には付いて行けないような気がして、この世の中がいやになってきていた。それは、①診療にくる子供の両親や、学校の若い先生方達の物の考え方が、あまりにも利己的であり、自分勝手にルールを破り得にならないことは手を出そうとしない。②先輩の先生方が次々に亡くなられ、次第次第に世代交代となってきた。③診療所を経営していて、若い看護婦を使う人事が煩わしくなり又診療する社会保険のルールがうるさくて段々面倒になり、苦勞して収入を得ても税金でぼっこり取り上げられ、開

業を継続して行くのが全くいやになってしまった。

そんな折に、肺癌になったので神様が、この世の中がいやになった私に癌を下さり「この人生に終りを遂げよ」と告げられたものと思った。しかし幸か不幸か、癌の発見が少々早すぎて、手術を早目にしたので望んでもいなかった第2の人生を賜わったものと考えざるを得なくなってしまった。

依って今後は、癌の再発はないとしても、いつ余病として脳梗塞、心筋梗塞、腎不全や前立腺癌などが出ないとは限らない。

いつ余病が出てても良いものと覚悟は出来ているので、その余病が出る迄、医師会の皆さんになるべく御迷惑をかけないように、社会の為、老人達の為につくしたいと思っている今日この頃である。どうぞよろしくおねがいます。最後に、この病気で大変お世話になった、光市立病院板垣院長、徳山中央病院館林院長、岡本安定先生、宮下外科部長、片山放射線科部長、宮内麻酔科部長の各先生に深甚なる謝意を表したい。

(平成8年3月末 記)

3月度定例理事会 (新旧理事)

日時：3月13日(水) 午後7時30分～

場所：医師会事務局

出席者：近藤、前田、赤崎、藤原、藤村
市川、光武、梅田、吉村
(新松村、河村)

議題：

- 1) 生涯教育担当理事協議会の報告
(赤崎理事)
- 2) 光市防災会議への参加と協定書の検討
(近藤会長)
- 3) 新年度役務分担についての検討
(近藤会長)
- 4) 来年度予算重点項目についての検討
(近藤会長)
- 5) 生涯教育の報告について
(赤崎理事)
- 6) その他

3月度例会

日時：3月26日(火) 午後7時30分

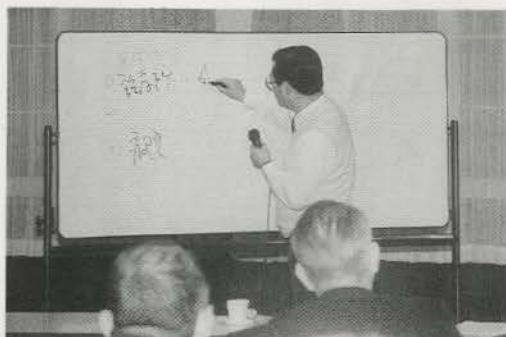
場所：光商工会館

出席者：28名

〔特別研修会〕

1. 今回の診療報酬改訂の解説とその留意点
2. これからの医業はどうなるか。今すぐ準備すべきこと

講師 安田会計事務所 安田伸彦先生



平成8年度 休日診療当直表

月	4 月					5 月					6 月					7 月					8 月					9 月					10 月							
日	7	14	21	28	29	3	4	5	6	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	20	21	28	4	11	18	25	1	8	15	16	22	23	29	6	10	13	20	27
内科系	守友	吉村	河村	田村	大月	市川	丸岩	田中	河内山清	佃	廣田	金子	高橋建	田中	吉村	河村	河内山清	大月	高橋建	廣田	佃	田村	丸岩	金子	守友	市川	田中	吉村	河村	河内山清	大月	高橋建	廣田	守友	丸岩	田村	田村	金子
外科系	梅田	高橋秀	前田	近藤	竹中	兼清	室積	岩本	中村国	富恵	河内山正	松村	藤原	藤村	光武	道上	近藤	梅田	高橋秀	清水	前田	竹中	兼清	室積	岩本	中村国	富恵	河内山正	松村	藤原	藤村	光武	道上	清水	梅田	高橋秀	竹中	前田

月	11 月					12 月						1 月						2 月					3 月										
日	3	4	10	17	23	24	1	8	15	22	23	29	30	31	1	2	3	5	12	15	19	26	2	9	11	16	23	2	9	16	20	23	30
内科系	市川	吉村	河内山清	河村	田中	守友	高橋建	丸岩	田村	金子	吉村	大月	佃	市川	廣田	河村	守友	田中	河内山清	高橋建	大月	丸岩	廣田	市川	田村	守友	佃	河村	高橋建	吉村	丸岩	田村	市川
外科系	近藤	兼清	室積	岩本	中村	富恵	河内山正	松村	高橋秀	藤村	梅田	道上	清水	光武	藤原	河内山正	松村	竹中	兼清	室積	中村国	岩本	富恵	近藤	前田	藤原	藤村	光武	道上	清水	高橋秀	梅田	兼清

(安田伸彦先生作成の資料より抜粋)

社会保険診療報酬改定の方針

- (1) 一般病院から療養型病床群への転換の促進、病院・診療所の機能分担を踏まえた適正な評価、急性期医療、長期療養に適した評価を行うことにより、医療機関の機能分担を推進する。
- (2) 小児外来医療の包括化、精神医療の評価、慢性疾患に対する総合的な評価等患者の心身の特性に応じた診療報酬上の評価を行う。
- (3) 老人の心身の特性を踏まえ、老人の慢性疾患に対する外来医療の包括化、病棟におけるリハビリや入院から外来への移行期におけるリハビリ、長時間のデイケアや痴呆患者の手厚いデイケア、寝たきり老人等に対する訪問歯科医学的管理の評価等を行う。
- (4) 医薬品や治療計画等について患者に対する情報提供を推進する。
- (5) 医療技術の適正な評価を行うため、初再診料、入院時医学管理料、手術料等や歯科の補綴に係る技術などの評価を行う。
- (6) 在宅医療の推進を図る観点から、末期や急性増悪時における在宅医療の充実を図るとともに、訪問看護ステーションからの訪問看護について、24時間連絡体制や過疎地域の訪問等の評価を行う。
- (7) 付添看護の円滑な解消を進める観点から、付添看護解消計画等の支援措置を継続する。また、労働時間の短縮等への対応を勘案し、看護料全般の評価を引き上げるとともに、労働時間と連動する夜間の看護体制の評価の充実を図る。

- (8) 適正な医薬分業を推進するため、処方箋の受付回数、特定の保険医療機関からの集中度により調剤報酬を大幅に見直すとともに、薬歴管理、服薬指導等のかかりつけ薬局機能の評価の充実を図る。また、保険薬局と保険医療機関の独立性を確保する観点から、処方箋の交付に関する財産上の利益の供与等を禁止する。
- (9) 医薬品の適正使用を促進する観点から、老人の慢性疾患に対する外来医療の包括化を図るほか、多剤投与の場合の薬剤料の低減等を行う。
- (10) 検体検査、画像診断等の適正化、治療材料価格の適正化を図る。検体検査、画像診断の専任医師による診断等を評価する。

老人診療報酬等の改定の方針

- (1) 老人慢性疾患患者にふさわしい療養環境の整備を図るため、
 - ①療養型病床群の療養環境に対する評価の充実を図る。
 - ②療養型病床群入院医療管理料の改定、療養型病床群移行計画加算の新設等により、一般病棟、老人病棟の療養型病床群への移行の促進を図る。
 - ③入院時医学管理料、看護料について、老人の長期療養に対する適正な評価を行う。
- (2) 老人慢性疾患患者の心身の特性にふさわしい外来医療の提供のため、慢性疾患に対する指導、検査、投薬及び注射を包括した老人慢性疾患外来総合診療料の新設を行う。
- (3) 老人の病態に応じた適切なりハビリテーションを提供するため、急性期リハビリテーション、入院・外来における維持期リハビリテーションの評価の充実を図る。

(4) 在宅医療の充実を図り、在宅の寝たきり老人が安心して療養できる環境を整備するため、

①24時間連絡体制の評価、特別地域加算の新設等により、老人訪問看護事業の推進を図る。

②在宅末期医療に対する評価の充実を行う。

③訪問指導及びデイ・ケア等の推進を図る。

(5) 痴呆性老人対策の推進のため、老人性痴呆疾患治療病棟・療養病棟の評価の充実及び老人性痴呆疾患療養病棟の施設基準の見直しを行うとともに、痴呆性老人に対するデイ・ケアの強化を図る。

(6) 付添看護解消計画加算の継続等により、付添看護の解消の徹底を図るとともに、老人その他看護の人員配置基準の引き上げを行う。

(7) 入所者の入所期間に応じた基本施設療養費の評価を行う等、老人保健施設における適切な施設療養を確保する。

(8) 保険薬局による在宅の寝たきり老人等に対する薬学的管理指導の評価の充実を図るため、寝たきり老人訪問薬剤管理指導料の算定回数制限の緩和等を行う。

新診療報酬説明会

日時：3月19日(火) 午後7時30分～

場所：光商工会館

出席者：49名（医師—22名、事務—27名）

心電図研究会（第93回）

光市・下松医師会合同

日時：3月8日(金) 午後7時30分

場所：光商工会館

出席者：9名（光市—7名）

症例：

1) 83才、♀（主訴）徐脈、意識障害、（診断）高K血症

2) 74才、♂（主訴）易労感、食思不振（診断）高K血症

3) 56才、♀（主訴）胸痛、（診断）主幹部の硬塞

会員動向

（退職）小西基彦 光市立病院泌尿器科

ⅢⅢ あとがき ⅢⅢ

今年の4月は例年より平均して気温が2～3度低いようですが、そのためでしょうか桜が散るのが大分遅かったような感じがします。

表紙の写真のカラー化にやっとふみきりました。ただ不安のみです。（吉村）



発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	近藤龍一
編集者	広報担当
印刷所	光市光井一丁目15番20号 中村印刷株式会社